

2. 中国国内オフショア開発拠点から日本の開発サーバーへの接続

事例2-1. 中国の複数オフショア開発拠点から、日本のAWS上の開発環境への接続

【導入プラン】: IX-NET 通信回線帯域指定サービス

・IX-Router PRO (接続台数が多い場合、または通信トラフィックが大きい場合にご提供するルーター)を今回採用。

【業種】: オフショア開発

・従業員数: 約50,000名
・利用拠点: 中国2か所: 湖南省、陝西省

◆ IX-NET 導入の背景

中国国内2か所の開発拠点から日本のAWS上の開発環境に対して、それぞれ数十人の開発メンバーが一般インターネットによるオンライン接続でリアルタイムに開発作業を行っていた。

しかしながら、プロジェクト開始直後から国際インターネットルートでのAWSへのアクセスは通信品質が悪く不安定となり、数十人の開発メンバーの開発作業の進捗に影響が出始め、納期遅延への懸念が高まっていた。

◆IX-NET が選ばれた理由

1. 利用開始までのリードタイム:

ご相談を受けてから5営業日後には検証環境構築を完了した。

2. 拡張性(利用帯域の増速への柔軟な対応):

- ① 検証実施中に実際に発生しているトラフィックを計測し、適切な通信帯域を決められた。
- ② プロジェクトメンバー増員による通信帯域の増速も2営業日程度で対応可能であること。
- ③ WEB会議「ZOOM」によるプロジェクト会議の利用要件についても、必要な通信帯域幅の検討はトラフィックレポートを提示することで透明性をもって決定できた。

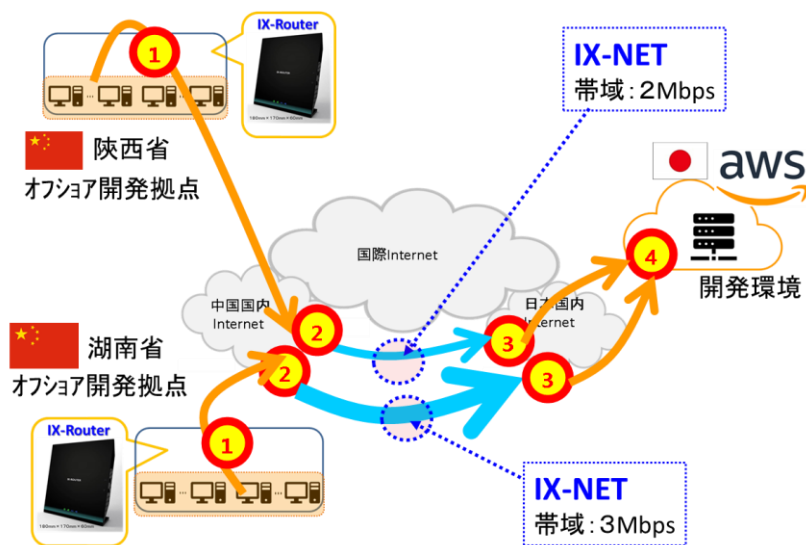
3. 通信環境構築の容易性:

弊社の現地会社(上海オフィス)からお客様の中国2拠点それぞれに遠隔でのヒアリングを行い、ルーター設定に必要な情報の収集を行うことで容易に構築できた。

◆導入の効果

オフショア開発で必要なプロジェクト運営上での要件(開発用通信帯域の確保並びに、定例進捗会議やトラブル発生時のリカバリ会議などのWEB会議)を満たした安定した通信帯域確保の実現で、プロジェクト運営に貢献。納期遅延のリスクも回避できた。

◆ システム構成図



※この事例と関連する他の事例

事例 2-2. 中国国内のオフショア開発拠点から、日本の開発環境への接続